

今年の夏は、わが町にとっても大変“熱い”夏でした。

東京 2020 オリンピックでわが町出身者、田中海渡、及川栞、瀬川真帆の 3 選手がホッケー日本代表に選ばれ、彼らの活躍は私たちに格別な元気と勇気を与えてくれました。残念ながら日本は男女とも決勝トーナメントに進むことは叶いませんでしたが、ピッチを疾走する 3 選手の姿はきっと多くの少年少女の目に焼き付けられたことでしょう。“ホッケーのまち・岩手町”の歴史の 1 ページが新たに刻まれました。選手の皆さん、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

また、今回の東京 2020 オリンピックでは、岩手町はホストタウンとして、アイルランドの女子ホッケーチームの事前合宿を無事受け入れることができました。今回は新型コロナウイルス対応としてふれあいによる交流ができなかったのは惜しまれますが、歓迎セレモニーで披露した郷土芸能の演舞はアイルランドの皆さんの心にしっかりと印象付けられたようです。また、歓迎セレモニーに駆けつけた大勢の町民の姿を見て、アイルランドの選手の一人は「初めてオリンピックに来た！という実感が湧いた」と語ってくれました。そして、オンラインでしたが、中高生や町民の皆さんとの交流の時間も設けました。わが町の出来る限りのおもてなしは、アイルランドと岩手町との本格的な交流へとつながっていく契機になったに違いありません。コロナ禍の中で、多くの関係者、支援者の皆様の情熱に支えられた“熱い”夏でした。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大では、今、新たな局面を迎えております。当面の間、イベントや祭りなど不特定多数にご参加、ご来場を期待するイベントは中止となることが多くなると思いますが、皆様には何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

先般、一戸町の御所野遺跡の世界文化遺産登録が決定しましたが、実は、わが町も 6 千年前からの縄文文化が息づく町です。

このようなコロナ禍の非常事態だからこそ、私たちは祖先から営々と受け継いできたむらづくり、まちづくりを今一度振り返ってみる必要があると思います。後世の人間が過去となる私たちが生きている現代を振り返った時に、例えば縄文文化のごとく、必ず大きな文化の力を感じることでしょう。文化とは狭い意味の芸術芸能のことだけではありません。農業やスポーツなど人間ならではの英知と努力が結集されたものすべてが文化＝カルチャーであります。文化の力を絶やすことなく発展させ続けることは、未来の人たちの希望にもなるのではないのでしょうか。

コロナ禍の中でも、この文化の“熱い”脈流を止めることなく、SDGs 未来都市として人材育成など、出来ること、成すべきことを淡々粛々と進めて参ります。

みんなでこの難局を乗り切って参りましょう。

令和 3 年 8 月 19 日